



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ディスカッション授業参加者の期待と不安

－ 多様な胸のうちを理解する －

5

MBA学生との懇親パーティーにて

ケースメソッドで教える最初の Semester がどうにか終わった。全部で 20 セッションあったクラスのうち、私は 18 セッションをケースメソッドで教えた。決して上手くいったとは思っていないが、この春からビジネススクールの教職に就いて、曲がりなりにもケースティーチングのスタートを切れたことが嬉しかった。

その夜、来る日も来る日もケースの予習に励んだ学生たちの労をねぎらうための、学期末の懇親パーティーが開かれた。例年、1 学期の最終日に、このビジネススクールの教務部門が主催している。私もそこに、その夜ばかりは肩の力を抜いて参加させてもらった。授業で学生たちと議論するのも本当は楽しいはずなのだが、新米教師の私にはほとんどそんな余裕はなかった。だから、軽くお酒を飲みながら学生たちとフランクに語り合える場は、ほんとうに楽しみだったのだ。

パーティーが始まると、たくさんの学生たちが私を囲んでくれた。せっかくの機会なのだから、私としては彼(女)らと授業以外の話をしたかったのだが、彼(女)らはそれを許してくれない。ところが、私にとってはそのことが幸いして、そこで実に大きな収穫を得た。ディスカッション授業の教室に集まる、参加者の胸の中にある多様な心情に触れることができた

このノートは慶應義塾大学ビジネス・スクール博士・修士課程併設科目「ケースメソッド教授法特論」の教材とするために、竹内伸一と大倉由利子(ともにケースメソッド教育研究所)が作成した。(2004.10)

本ノートは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ノートの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp)。また、ノートの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ノートのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送は、これを禁ずる。

Copyright©2004 は慶應義塾大学ビジネス・スクールが保有する。